

III 国際交流

国際交流

岩本由美、大野泰子、小林敏生

2023 年度本学部の国際交流委員会の活動は、国際交流センター活動の一部として進められ、5 月に新型コロナウイルス感染症の位置づけが 5 月の GW 明けから「5 類感染症」になったため、それに応じた活動が行われた。

2023 年 4 月 18 日にドイツ国カトリック応用科学大学から教員 2 名、学生 13 名が訪問団として来学した。

午前中、瀬野川病院を訪問し、加賀谷有行医師（瀬野川病院 KONUMA 記念依存とこころの研究所 所長）より「瀬野川病院で診療する依存症」"Addiction Treated at Senogawa Hospital"と題し日本語・英語で講義を受けた。依存症治療について質疑応答、そして、2 グループに分かれ、看護師の案内で瀬野川病院敷地内を見学ツアー（急性期、慢性期、デイケア、就労支援センター、グループホーム、就労施設など見学）後、看護師・臨床心理士も加わり交流・意見交換を行った。昨年度の国際交流委員である佐々木秀美、中村哲、岩本由美で担当した。

その後、広島文化学園大学が準備したバスで阿賀キャンパスに移動、12 時半頃から学長・研究科長、教職員を交え、阿賀キャンパスでウェルカムランチと題し、食堂のお弁当を食べながら、訪問団は自己紹介を行った。その後、14-17 時 301 教室で ZOOM 配信を行いながら、対面で国際教育交流会を開催した。

国際教育交流会では、坂越学長挨拶のあと、ビルギータ・ストレーター教授 (Prof. Dr. Birgitta Straeter) の講演「老人施設の高齢者とセクシュアリティ」"Sexuality in Retirement Homes"、タニア・ホフ教授 (Prof. Dr. Tanja Hoff) の講演「文化変容・移住とメンタルヘルス—薬物依存に焦点をあてて—」"Acculturation/ Migration and Mental Health"、そして伊藤駿講師と子ども学科の学生 2 名の講演「ウクライナ侵攻に対する本学の取り組み—みんなが参加できる平和づくり」"HBG's Approach to Ukrainian Pupils: How We Can Get Involved in Humanitarian Action from Hiroshima" がおこなわれ、意見交換・交流を行った。岡本研究科長の挨拶で終了した。その様子は、本学キャンパスリポーターの松村優依さんが記事にまとめ中国新聞デジタル（2023 年 5 月 11 日付）で報道された。学生達の交流はその後、場所を近所の中華料理店に移動し、夕食とともに交流を深めた。国際交流委員は裏方として行事がスムーズにおこなわれるよう支援した。

交流後、カトリック応用科学大学から 9 月にドイツ国ケルンキャンパスにおいてカトリック応用科学大学学術集会を開催することの招待状が送られてきた。

2023 年 9 月 26-28 日、ドイツ国ケルン市 カトリック応用科学大学学術集会には、本学から、看護学研究科の岡本陽子研究科長をはじめ、佐々木秀美教授、中村哲教授、岩本由美が出席した。訪問団は、9 月 24 日にミュンヘン市の登録社会福祉法人「ミュンヘン友の会」主催の講演会に招かれ、交流したのち、ケルンに移動した。

学会中は、基調講演に出席し、日本からの訪問団として大学ホームページで紹介された。また、学長表敬訪問、社会福祉学部長・学科長表敬訪問を行い、交流を深めた。カトリック応用科学大学は、日本において複数の大学と提携しているが、今回日本からの訪問団は本学からのみであった。毎年の交流と今回の訪問の実績を踏まえ、学部長から今後も交流を継続したい旨の話があった。その他、滞在中には、ケルン市・アーヘン市の複数の社会福祉施設の見学やキャンパス内の健康科学部助産専攻の教員との交流、アーヘン市では様々な心理療法、音楽療法、理学療法、作業療法を組み合わせ、社会福祉サービスを提供している精神病院の音楽療法を体験することもできた。

カトリック応用科学大学との大学間協定は今年で5年となり、来年次の5年の協定に進むことで、今後の実りある交流が期待される。

その他、国際交流センターの活動として、フィリピン国パーペチュアルヘルプ大学への短期語学研修の募集の取り組みや広島文化学園大学長束キャンパスでの英語検定の受験の取り組みが始まった。経済的な問題を軽減できるような仕組みづくりにも取り組むことも必要であろう。さらに、国内での国際交流の視点を取り入れ、学生間での交流が進むような仕組みづくりが必要である。



写真 1. 国際教育交流会の様子（4月）



写真 2. 学生間交流の様子（4月）



写真 3. カトリック大学学長を囲んで（9月）



写真 4. 学術集会の様子（9月）